人と文化に触れる旅 ～ 国際理解研修での異文化理解と自らの変容 ～

【交流前の考え】
- 人が多く、ごみごみしている。(良い人が多い、子供が多い、明るい人が多い)
- 言葉の壁があり、コミュニケーションは難しい。
- ネット上での情報が先進国よりも少ないからわからないことが多く不安。

カンボジア

矢場とんスクール第4学校(プノンペン)

現地中高生と習字、金魚すくい、バレーボール、リレー、現地の授業を受けるなどの交流を深めた。

コンポンプルック村(シェムリアップ)

生きている鶏をさばいて焼き鳥を作ったり、魚をとったり、家に訪問するなどのプロジェクトを実施した。

いろいろな触れ合い！?

世界遺産の修復作業、マングローブの植樹、お土産物の購入、タランチュラ・カエル？などを食べるなどいろいろな体験や人との交流があった。

マレーシア

手食文化（Shinarann village）

専用のポットで手を洗い、右手を使ってご飯を食べました。普段と違うので本当に苦労した。

民族衣装

民族衣装「パジュ・クルン」「パジュ・ケバヤ」は、装飾や色も綺麗で通気性もよく、熱帯地域においても快適に過ごすために作られていた。

伝統遊び

「マンカラ」「バトゥスレンバ」と呼ばれる伝統的なビー玉ゲームでしたが、小さい子にも負けてしまうことがあった。

私たちの変容　　人と文化に触れ得られること

【交流後の考え】

○ 言語コミュニケーションができなくても、お互いの目を見て笑顔やジェスチャーをうまくやれば、交流が十分に可能であることを認識した。「思いやる気持ち」が交流の土台である。

○ 家族やコミュニティーのつながりを日本よりも強く、お互いに支え合う姿を感じた。

○ インターネットやSNSで自分の知らない生きづらさや足りないものを探すのではなく、目の前にあるものを大切にする生き方や努力をする大切さに気付いた。

【未来に向けて】

① 多様な社会において、「違いを受け入れることが社会の豊かさにつながることにもなる」という意識を持ちながら、何事にも偏見などを持たず最初から挑戦していく。

② あまり存在が知れ渡っていない魅力ある文化やその物自体が薄れてきている文化を守る活動をしていきたい。

③ 日本国外では言語の壁はあれどお互いが伝えようと努力することで言葉はしっかりと伝えることができなくてもその人の優しさなどの気持ちを共有することができると知ることができたので、これから日本に移住してくる海外の方も増えて来ると思うが、臆することなく接していく。

名古屋国際中学校・高等学校　NUCB International Junior & Senior High School